

第31回 茨城リウマチ

日時：2025年11月22日(土)
16：00～19：10

本会終了後、立食による情報交換会を予定しております

参加費：

医師 1,000円 メディカルスタッフ 500円

開催形態：

①現地聴講 つくば国際会議場
『小会議室402』

②オンライン(zoomミーティング)

<https://x.gd/tubXZ>



上記の二次元コードまたはURLより事前登録画面へお入りください
単位をご希望の方は裏表紙の注意事項をご確認の上、ご聴講ください

当会はリウマチ学会・リウマチ財団・日本整形外科学会の単位を取得いただけます

< 一般演題 16:00～17:00 >

【座長】 ひたちなか総合病院 リウマチ科
小國 英智 先生

【演者Ⅰ】 茨城西南医療センター病院 リウマチ・膠原病内科
黒田 有希 先生

『 経口避妊薬で改善を認めた既存治療抵抗性の
月経誘発性家族性地中海熱の一例 』

【演者Ⅱ】 筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学
谷 佳憲 先生

『 関節リウマチと鑑別を要した *Corynebacterium striatum*
による亜急性化膿性関節炎の一例 』

【座長】 筑波大学医学医療系 整形外科学
准教授 三島 初 先生

【演者Ⅰ】 水戸協同病院
副院長兼整形外科部長 万本 健生 先生

『 関節リウマチ膝に対して施行した
高位脛骨骨切り術の1例 』

【演者Ⅱ】 筑波大学医学医療系 整形外科
講師 井汲 彰 先生

『筑波大学附属病院におけるリウマチ手外科手術の変遷』

～ コーヒーブレイク 17:00～17:10 ～

< 特別講演 17:10～19:10 >

17:10～18:10

【座長】 筑波大学医学医療系
膠原病リウマチアレルギー内科学
教授 松本 功 先生

【演者】 順天堂大学医学部 膠原病内科
主任教授 田村 直人 先生

『 体軸性脊椎関節炎診療の

適正化を目指して 』

18:10～19:10

【座長】 いちはら病院
名誉院長 山崎 正志 先生

【演者】 弘前大学大学院 医学研究科
整形外科学講座
教授 石橋 恭之 先生

『 疫学研究から考える

変形性膝関節症の病態と手術治療 』

本会終了後、立食による情報交換会を予定しております

単位取得と事前登録についてのご案内

	特別講演Ⅰ		特別講演Ⅱ		単位申請料
	【6】リウマチ性疾患, 感染症 【7】脊椎・脊髄疾患	【R】 リウマチ単位	【6】リウマチ性疾患, 感染症 【12】膝・足関節・足疾患	【R】 リウマチ単位	
日本整形外科学会教育研修単位					1単位¥1,000
日本リウマチ学会教育研修単位	○		○		1単位¥1,000
日本リウマチ財団登録医	○		○		1単位¥1,000
日本リウマチ財団登録薬剤師	2-1, 2-2, 2-3		1-1, 1-2, 3-1		2単位¥1,000
日本リウマチ財団リウマチケア看護師	2-1, 2-2, 2-3		1-1, 1-2, 3-1		2単位¥1,000
日本リウマチ財団登録リウマチケア理学・作業療法士	2-1, 2-2, 3-4		1-1, 1-2, 3-1		2単位¥1,000

【オンライン聴講】

①下記U二次元コードまたはURLよりアクセス下さい

<https://x.gd/tubXZ>



②登録画面よりお名前やメールアドレス、単位申請の有無等、必要事項をご記入の上、登録頂きますとご参加用のメールが届きます

【オンラインで単位取得を希望されるご参加者様】

～講演会当日のお願い～

- ・視聴時のお名前は「氏名(ご施設名)」に設定をお願い致します
- ・視聴中は常時カメラ(ビデオ)をONでお願いします
- ・単位取得を希望する講演の開始から終了までのご視聴が必要です

～講演会終了後のお願い～

- ・聴講記録が確認できましたら当日ご登録のメールアドレスへ振込先口座をお送りします
単位申請のルールが変更となり大変ご迷惑をおかけしますが、単位申請料の振り込みを2025年11月25日(火)までをお願い致します
- ・ご入金者の名前は事前登録した名・姓と同一にして下さい
※振込期限までにご入金を確認できない場合、単位が取得できませんのでご注意ください

※ 御記入頂きました個人情報、個人情報保護法を遵守し、以降の講演会開催の案内及び学術資料の提供に使用させていただきます

※ 本講演の録画・録音、撮影などは禁止とさせていただきますので予めご了承ください

【お問合せ先】 旭化成ファーマ 茨城営業所 担当 福島

TEL: 080-9436-9890

Email: fukushima.tw@om.asahi-kasei.co.jp

第31回

茨城リウマチ

日 時 令和7年11月22日(土) 16:00～19:10

開催形態 オンライン：Zoomミーティング配信
現地聴講：つくば国際会議場 小会議室402

連絡先 茨城リウマチ 事務局
筑波大学医学医療系内科
膠原病リウマチアレルギー内科
教授 松本 功
〒305-0875つくば市天王台1-1-1
Tel & fax 029-853-3186

共 催 茨城リウマチ
旭化成ファーマ株式会社

第31回 茨城リマウチ

■日 時：令和7年11月22日(土) 16:00～19:10

■開催形態：オンライン：Zoomミーティング配信 現地聴講：つくば国際会議場 小会議室402

プログラム

一般演題 16:00～17:00

内科系演題 16:00～16:30

座長： ひたちなか総合病院 リウマチ科
小國英智先生

演者Ⅰ： 茨城西南医療センター病院 リウマチ・膠原病内科 黒田有希先生

『経口避妊薬で改善を認めた既存治療抵抗性の 月経誘発性家族性地中海熱の一例』

演者Ⅱ： 筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学
谷佳憲先生

『関節リウマチと鑑別を要したCorynebacterium striatumによる亜急性化膿性関節炎の一例』

外科系演題 16:30～17:00

座長： 筑波大学医学医療系 整形外科学
准教授 三島初先生

演者Ⅰ： 水戸協同病院 副院長兼整形外科部長 万本健生先生

『関節リウマチ膝に対して施行した 高位脛骨骨切り術の1例』

演者Ⅱ： 筑波大学医学医療系 整形外科 講師 井汲彰先生

『筑波大学附属病院における リウマチ手外科手術の変遷』

特別講演 I

17:10~18:10

《座長》

筑波大学医学医療系
膠原病リウマチアレルギー内科学
教授 松本功先生

《演者》

順天堂大学医学部 膠原病内科
主任教授 田村直人先生

『体軸性脊椎関節炎診療の 適正化を目指して』

特別講演 II

18:10~19:10

《座長》

いちほら病院
名誉院長 山崎正志先生

《演者》

弘前大学大学院 医学研究科 整形外科学講座
教授 石橋恭之先生

『疫学研究から考える 変形性膝関節症の病態と手術治療』

経口避妊薬で改善を認めた既存治療抵抗性の月経誘発性家族性地中海熱の一例

○黒田 有希¹⁾, 植松 奈々²⁾, 江辺 広志¹⁾

1) JA茨城県厚生連茨城西南医療センター病院 リウマチ・膠原病内科 2) 筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学

【症例】23歳女性. 4年前から月経時のみの発熱, 背部痛, 下腹部痛, 関節痛が出現した. 月経, 発熱時のCRP, 血清アミロイドAの上昇と非発作期の陰性化を認め, 発作時のコルヒチン内服で速やかに症状改善したことから家族性地中海熱と診断した. コルヒチン1.5mg/日で加療したが2年前より効果不十分となり, 月経時の発熱と漿膜炎, 関節炎が持続した. カナキヌマブ150mg/4週を導入したが投与後3週時点で発熱と漿膜炎が出現した. カナキヌマブ増量は希望されず, 5ヶ月前より経口避妊薬を開始したところ発作消失を認めた.

【考察】月経誘発性家族性地中海熱では女性ホルモンの減少と発作の関連が想定され, コルヒチン併用での経口避妊薬による症状改善が報告されている. 今回, コルヒチンとカナキヌマブに抵抗性の月経誘発性家族性地中海熱の症例に経口避妊薬を追加し, 改善を認めた. カナキヌマブ増量をせずに疾患制御できた事は医療経済的にも意義があると考えられる.

関節リウマチと鑑別を要したCorynebacterium striatumによる亜急性化膿性関節炎の一例

○谷佳憲、杉田稔貴、徳永光太郎、菊池怜菜、柴崎史行、杉田直輝、頼哲誼、川島典奈、西山泰平、清水優、大山綾子、安部沙織、北田彩子、浅島弘充、三木春香、近藤裕也、坪井洋人、松本功

筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学

【症例】

77歳男性。X年3月に発熱、左肘周囲の浮腫を認め前医を受診した。CTで浸潤影を認めたが抗菌薬不応の経過であり、器質化肺炎としてmPSL 40mgで開始された。肺炎像は改善したがPSL減量中に発熱や浮腫が遷延し、5月に当院転院となった。弁膜症合併から感染性心内膜炎を疑い、抗菌薬を6週間投与したところ炎症所見は改善したが、PSL減量過程で左肘、左手関節炎の顕在化を認めた。関節リウマチを想定しPSL増量、アバタセプトを導入するも無効であった。診断見直しのため滑膜生検を施行したところCorynebacterium striatumが検出され、同時期の血液培養からも同菌が同定されたため化膿性関節炎が主病態であると診断した。バンコマイシンを4週間投与し関節症状は改善し転院となった。

【考察】

Corynebacterium striatumは急性から亜急性の関節炎を来すが、コンタミネーションとの判別が難しく、亜急性かつ多関節病変の際は関節リウマチとの鑑別を要する。本症例は滑膜生検により診断確定と治療につながった。

関節リウマチ膝に対して施行した高位脛骨骨切り術の1例

○万本健生、千野祐介

水戸協同病院

関節リウマチ（RA）膝は滑膜炎により関節破壊や変形を来しやすく、一般に人工膝関節置換術が選択される。しかし、低疾患活動性例では関節温存手術も選択肢となり得るとする報告が散見される。今回、42歳女性RA患者に高位脛骨骨切り術（HTO）を施行した症例を報告する。34歳時に発症、薬物療法により低疾患活動性を維持していたが、右膝関節痛が出現。膝ROM $-5^{\circ} \sim 135^{\circ}$ 、内側関節裂隙の狭小化と内反変形を認めたが、他コンパートメントに異常はなかった。若年で高活動性・低疾患活動性を考慮しHTOを選択した。術後疼痛は改善し、3か月で製造加工業への職場復帰可能となった。抜釘時関節鏡では内側軟骨下骨露出部に白色組織の被覆を認め、外側の変性進行はなかった。RA膝に対するHTOは適応が明確でないが、疾患活動性が安定し単一コンパートメント病変を有する若年例では有用な選択肢となり得ると考えられた。

筑波大学附属病院におけるリウマチ手外科手術の変遷

○井汲 彰、岩渕翔、十時靖和、岡野英里子、原友紀

筑波大学医学医療系整形外科

薬物療法の進歩と普及に伴い、関節リウマチ患者の手術は世界的に減少している。一方で、手外科領域に関しては「手術はむしろ増加傾向にある」という報告が散見され、薬物療法の進歩に伴い適応される術式に変化がみられるとする報告もある。

本発表では、筑波大学附属病院における関節リウマチ患者に対する手外科手術の変遷について検証し、当院でリウマチ手指変形に対して行っている手術について紹介する。

2020～2024年に当院で手肘の手術を受けた関節リウマチ患者を対象に、手術件数・年齢・性別・部位・術式を調査し、2009～2013年の結果と比較した。手術件数は42件65術式から85件126術式と倍増し、手術時平均年齢も61.7歳から64.3歳と高齢化が確認された。性別は男性の内訳が4.8%から14.1%と増加していた。部位では手指の割合が増加し、手関節の割合が低下していた。術式では人工関節置換術の割合が増加し、観血的関節固定術の割合が低下していた。

体軸性脊椎関節炎診療の適正化を目指して

○田村直人

順天堂大学医学部膠原病内科

体軸性脊椎関節炎（axSpA）は仙腸関節や脊椎を侵し、若年男性に炎症性腰背部痛で発症しHLA-B27と関連する。炎症性腰背部痛で発症することが多く、診断には仙腸関節炎の存在をとらえることが必須である。実臨床では診断の遅れや過剰診療が起こりやすい疾患であり、axSpAの臨床像をよく知ること、除外・鑑別診断を十分に行うことが重要である。治療は患者教育に加えてNSAIDsを基本とし、効果不十分であればTNF阻害薬、IL-17阻害薬、状況によってはJAK阻害薬を用いる。グルココルチコイドやメトトレキサートは通常、用いない。薬剤の効果が不十分な場合には診断の見直しを行う必要がある。本講演ではaxSpAの診断とマネジメントについて解説する。

疫学研究から考える変形性膝関節症の病態と手術治療

○石橋 恭之

弘前大学大学院医学研究科整形外科

変形性膝関節症（膝OA）は高齢化社会におけるcommon diseaseの一つであり、疼痛や可動域制限による活動性の低下のみならず生命予後にも影響する。本講演では、地域一般住民の大規模疫学研究で明らかになった膝OA、特に早期膝OAの病態と、それらの治験に基づく手術治療の役割について概説する。

従来、膝OAは関節軟骨の変性・摩耗から始まると考えられてきたが、その発症と進行には、滑膜炎、骨髄浮腫、半月板損傷など複数の局所的誘因、全身的誘因が複合的に関与することが分かってきている。特に、炎症性サイトカインや力学的ストレスが病態の進行を加速させるという知見は、新たな治療ターゲットとして注目されている。

このため、手術治療は単なる保存治療のサルベージではなく、半月板を積極的に温存し、またアライメント不良を早期に適正化するという関節温存の方向へとシフトしてきている。また末期膝OAには人工膝関節置換術が有効であるが、その患者満足度を向上させるために様々な手術方法の改良が試みられている。